

欧州文化首都リガ 2014 :

ワーグナー、書籍印刷、夏至祭

ーリガ 2014 より、欧州文化首都及びそのプログラムについてのお知らせー

2014年の欧州文化首都は、ラトビアの首都リガです。オペラ、展覧会、フェスティバルなどを含めた200近いプロジェクトが行われ、500年の歴史を持つ書籍印刷をテーマにしたものから、現代アートフェスティバルなどの文化、歴史プログラム、そしてヨーロッパ最大級の夏至祭までその内容は多岐にわたります。

欧州文化首都リガ 2014 は、1月17日から19日、その開会を祝う様々なイベントで幕を開けます。特に注目を集めているのは、1月18日開催予定の「人間の鎖」。これは、本を愛する人々によって行われる象徴的なプログラムで、歴史あるラトビア国立旧図書館から、ダウガヴァ川の対岸に近年建てられた新図書館「光の城」まで、人から人へ本を手渡していくというものです。このイベントへの登録やキャンペーンは2013年6月より始まっています。1989年、バルト三国の人々は、独立運動の一環としてバルトの道に沿って手をつなぎ、人間の鎖を形成することでデモ活動を行いました。そして今回、2014年1月には、人々は世代をつなぐ文化の役割と価値のために、手を取り合います。

オープニング・イベントでは、もう一つ欧州文化首都として欠かせない公演が上演される予定です。それは、「リヒャルト・ワーグナーによるオペラ、リエンツィのマルチメディア・パフォーマンス」というもの。リヒャルト・ワーグナーは、リガで長年音楽監督として活躍してきました。デンマークの著名な監督・舞台演出家であるカースタン・デルホルム氏と、ラトビア国立オペラ座とのコラボレーションにより生み出されたこのマルチメディア・オペラは、1月17日に上演されます。また、「**Born in Riga (リガに生まれて)**」という、ラトビアにゆかりのある世界的アーティスト達による一連のソロコンサートも行われる予定です。更に、7月に行われる「**世界合唱祭**」では、リガ市内の各所を舞台に、世界約90か国から2万人の歌声が響き渡ります。そして主要な展覧会の一つ、「**The Book—1514年から2014年**」では、ラトビア新国立図書館において、500年の書籍印刷の歴史を紐解きます。

市民参加と創造性をテーマにしているリガ 2014 プログラムでは、訪れた人が、ディスカッションやワークショップに参加できる**現代アートフェスティバル「サバイバル・キット**」という展覧会も企画されています。リガの街角にある「**創造地区**」は、それぞれの個性あふれる地元の魅力を発揮した、多様なプログラムを提供する中心地となることでしょう。「**アンバー・ロード (琥珀の道)**」という展覧会では、多くの博物館やギャラリーで、文化、歴史、医学、最新科学そして地質学といったあらゆる異なった観点から、琥珀がもたらす

重要性と、バルトの琥珀についてその多様性を紹介します。と同時に、このアンバー・ロード（琥珀の道）展では、古代の琥珀貿易のルートに沿って、都市と地方間での現代文化の交流についても象徴的に展示する予定です。

ヨーロッパ最大級の「夏至祭」—ラトビアでは“リーグア”（夏至前夜祭）、そして“ヤーニ”（夏至祭）として祝されている、この夏至を祝うヨーロッパ各国の文化・風習の違いを紹介する予定です。そして11月中旬には、北ヨーロッパ最大の光のイベント「スタロ・リガ」を開催し、リガの街は光の芸術家たちによってイルミネーションで彩られることになります。

プログラムの終盤、12月13日には、リガでヨーロッパ映画アカデミー授賞式を開催し、街はヨーロッパの著名な監督や俳優、そしてメディアによって賑わいをみせることでしょう。

欧州文化首都2014リガのプログラムは、文化のポジティブな影響、つまり地域や住民により良い変化をもたらす力を意味するものとして、「フォース・マジュール（大きな力）」と呼ばれており、たくさんのパワーに満ち溢れたものになっています。

毎年、欧州委員会は、欧州文化首都の2都市の座を競う2か国を指名します。2014年の欧州文化首都は、ラトビアのリガと、スウェーデンのウメオです。ウメオとはいくつもの共同プロジェクトが企画されており、中にはリボニア人やサーミ人といった、これらの街に暮らすフィン・ウゴルの人々を巻き込んだプロジェクトも実施される予定です。

リガの公式パートナーであるスイグルダも、リガとのコンペティションに参加した都市の一つ。スイグルダでは、以下の2014イベントカレンダーに記載されているとおり、独自のプログラムを開催します。

[http://www.riga2014.org/lat/notikumu\\_kalendars/](http://www.riga2014.org/lat/notikumu_kalendars/)

リガ2014に関するより詳細の情報は、新設の文化ポータルサイト [www.riga2014.org](http://www.riga2014.org) に掲載されています。また [www.latvia.travel](http://www.latvia.travel) や [www.liveriga.com](http://www.liveriga.com) の各ページでも、ラトビアや首都リガの観光情報を提供しています。是非ご覧ください。

お問い合わせは、リガ2014 Anna Muhka : [anna.muhka@riga2014.org](mailto:anna.muhka@riga2014.org)  
または+37129474534 まで。

## 主なプログラム情報

### オープニング式典

2014年1月17日から19日、多くのオープニング・イベントが欧州文化首都の開幕を飾ります。ワーグナーのオペラ「リエッツィ」封切り公演や、様々な展覧会のほか、オープニングプログラムの中盤では、国立旧図書館から近年建築された新図書館「光の城」まで、本を愛する人たちが作った人間の鎖に沿って手から手へ本を渡していく象徴的なプログラムも開催されます。

会場：市内各所

期間：2014年1月17日から19日（本愛好家による「人間の鎖」は、1月18日、ラトビア国立新図書館のオープニング時に開催されます）

### ワーグナーのオペラ「リエッツィ」

欧州文化首都開幕プログラムの目玉の一つは、リヒャルト・ワーグナーのオペラ「リエッツィ」のマルチメディア公演です。本公演は、ラトビア国立オペラ座で行われ、有名なデンマークの監督兼舞台デザイナーのカーステン・デルホルムとの協働で実施されます。作曲家リヒャルト・ワーグナーは、若かりし頃、リガ市立劇場にて1837年から1839年まで音楽監督として働いており、その際にリガの街で「リエッツィ」の製作を開始しました。

また、クリストパス・ピーターソンによる「ミクハイル&ミクハイル・プレイ・チェス（ミクハイル・タルに捧げられた作品）」と、アーツルス・マスカトスによる「ヴァレンティナー」（ヨーロッパの有名な芸術批評家ヴァレンティナー・フレイマンに捧げられた作品）のラトビアのオペラ2作品が、欧州文化首都の開催を飾るものとして、新たに作曲されました。

会場：ラトビア国立オペラ座

期間：2014年1月17日（初演）

### The Book—1514年から2014年

書籍印刷の歴史500年を紐解く展覧会。ヨーロッパの最大の書庫の数々から集められた数々の貴重な印刷本が展示されます。その他にも、2014年6月には、イタリア・ラベンナの有名なモザイク画が公開予定です。

会場：ラトビア新国立図書館

期間：2014年7月1日から12月31日

### Born in Riga(リガに生まれて)

音楽界では、リガやラトビアは世界的にも非常に有名な地となっています。たとえば、指揮者のマリス・ヤンソンス、バイオリン奏者のギドン・クレーメル、現在最も著名なチェロ奏者の一人であるミッシェル・マイスキー、オペラ歌手のマイヤ・コヴァレヴスカ、バリトン歌手のエジス・シリンス、オルガニストのイヴェタ・アプカルナ、その他数多くの高名な音楽家やオペラ歌手がリガの地で生まれました。このような、リガにゆかりのある世界的音楽家たちが連続のソロ・コンサートを上演し、夏には野外コンサートも開催する予定です。

会場：ラトビア市内各所

期間：2014年中（野外コンサートは、7月6日ラトビア国立オペラ座にて開催。）

### 「1914」

2014年は、第一次世界大戦開戦からちょうど100年にあたる年。そこで1月に、ラトビア国立美術館では、ヨーロッパの著名なアーティストたちから見た第一次世界大戦、「1914」を開催します。この展覧会では、第一次世界大戦に関する歴史的側面、個人の物語、あるいは現代アーティストたちがそれらを表現した作品を紹介します。特に、第一次世界大戦直後に建国された国々出身のアーティストたちの作品は、注目の的になることでしょう。

会場：ラトビア国立美術館 アーセナルス・エキシビジョン・ホール

期間：2014年1月17日～4月19日

### アンバー・ロード（琥珀の道）

リガの博物館や美術館では、年間を通してアンバー・ロード（琥珀の道）に関する新しい展示を行います。リガ各所の会場で開催される多彩な展示は、地域の文化、歴史、医学や芸術といった観点から、琥珀がバルト地域で果たしてきた様々な役割を明らかにしてくれることでしょう。年のはじめには、ラトビア自然史博物館で「琥珀から糸まで」と題した企画展を開催。琥珀からできた糸を使って作られた織物の作品や、琥珀を用いた多次元の作品を展示します。また2014年以降も継続される常設展としては、初の試みとして、ラトビアの琥珀に関する地質学的特徴についての展示も行います。このアンバー・ロード（琥珀の道）展では、その他にも、医療博物館、リガ証券取引所、プチ・ギャラリー、バルト宝石ギャラリーやラトビア歴史博物館などが参加。文化の象徴である琥珀をテーマに、音楽や合唱のプログラムも関連プログラムとして開催予定です。

会場：リガ市内の美術館、博物館

期間：通年

### 夏至祭

ヨーロッパの人たちは伝統的に夏至をどのようにお祝いしてきたか、ご存知ですか？6月にリガを訪れば、地元の人たちと一緒に伝統的な夏至のお祝いを体験することができます。ヨーロッパにおける夏至の祝祭としては最大級である「夏至祭」を楽しむことができます。ラトビアでは、6月23日、24日は、リーグア（夏至前夜祭）、そしてヤーニ（夏至）を祝うための国民の祝日です。伝統的には夏至は2日早く祝われていたため、祝典は実際には6月21日に開始し、ラトビアで一番美しい場所の一つであるトゥライダやメザパークスで、ヨーロッパの多彩な夏至を祝うコンサートも共に開催されます。欧州文化首都の期間中は、伝説の中にも深く織り込まれている中世のお城の塔があるトゥライダ博物館保護区において、特別な祝典プログラムも企画されています。訪れた人たちは花冠を編んだり、ヤーニチーズを準備したり、ヤーニの焚き火をともして日の出を待ち、ラトビア民族舞踊の調べに合わせて歌ったり踊ったりしながら、このプログラムを楽しむことができます。

会場：各所屋外イベント会場にて

期間：2014年6月21日～24日

### フォース・マジュール（大きな力）

秋には、映画好きの人たちのために、リガでは珍しいフル・ドキュメンタリー映画「フォース・マジュール（大きな力）」と、その他7本の有名なヨーロッパドキュメント映画監督の作品が上映されます。作品は、リガ周辺や彼らが住む場所の社会的、文化人類学的考察を背景に制作されました。

会場：スプレンドィア・パレス・シネマ

期間：2014年9月3日（初演）

### 旧国家保安委員会ビル

5月からは、現在は一般公開されていない旧国家保安委員会（KGB）ビルが一般公開され、リガ2014のさまざまな催し物を開催する予定です。このビル自体は、複雑な歴史を抱えているもの。1912年に建てられ、はじめラトビア内務省の機能を持っていましたが、その後第二次世界大戦時にナチス・ドイツ軍の司令本部となり、やがて世界的にはKGBとして知られるラトビア・ソビエト連邦国家保安委員会の支配下となりました。

ラトビア独立後はラトビア警察によって使用されたこの建物も、2008年には使用者不在となり閉鎖。そこには、脅迫や尋問、さらには銃殺などといった、KGB支配時代の人々の恐怖の記憶が立ち込めているのです。

リガ2014では、20世紀の悲劇の記憶を国際社会に訴えかけ、ヨーロッパの歴史理解を深めるきっかけとするとともに、未来を築き新しい道を拓くための願いを込めて、この建物を一般公開することを決定しました。

ここではラトビア占領博物館を含め、この建物が持つ歴史に関するさまざまな展示を行い、リガ及びラトビアの人々の生活や運命とリンクさせながら、テーマに沿った展示を開催し

ます。

会場：Brivibas iela 61（ブリビバス通り 61）

期間：2014年4月30日～9月26日

### 創造地区

リガでは近年、いわゆる雨後の筍のごとく、次々と創造性に溢れた個性的な地区が出現し、独自の活動を展開しています。1年を通して、この創造地区はリガのクリエイティブイヤーや多様性を現す素晴らしいプログラムを皆さんにお届けします。

会場：創造地区都市

期間：1年中

### 世界合唱祭

第8回世界合唱祭は、参加者の数からしても欧州文化首都の最大イベントになることでしょう。7月には、リガ市内のありとあらゆる場所、地区、通りが、世界90か国の2万人の歌声で満たされることとなります。

会場：リガ市内各所

期間：2014年7月9日～19日

### 現代アートフェスティバル「サバイバル・キット」

現代アートフェスティバル「サバイバル・キット」は、2009年、ラトビアの経済危機によって引き起こされた国内の変化に対するものとして始まり、多くのイニシアティブや創造地区の出現をもたらしました。2014年9月に予定されているこの国際芸術祭では、一風変わった場所を会場にしたり、コミュニティ参加型の創造的なプロジェクトや、実践セミナー、映画上映、読書会や討論会といった形式で、プログラムを行う予定です。

会場：市内各所、ウメオでの姉妹プログラム内

期間：2014年9月4日～21日

### スタロ・リガ

2014年、北ヨーロッパ最大の光のフェスティバル「スタロ・リガ」では、光とマルチメディアを使った国際的なプログラムを開催します。この数日にわたる光のフェスティバルは、ラトビア独立のお祝いに欠くことができないものです。ビルや街並み、橋やモニュメントが光の芸術に彩られた個性溢れる一面を見せ、さらにパフォーマンスや音楽、映像が更なる魅力を見せてくれます。最先端の光と映像技術によって、ほとんど見分けがつかなくなるほどその様相を変え、新たに生み出された色彩によって街は眩しい輝きを放ちます。見るものを最も巻き込んだ作りになっている仕掛けを施した照明技術は、観客にも一番人気のあるものとなっています。

会場：リガ市内各所

期間：2014年11月14日～18日